

卒業展

『美術教育における絵画表現の題材と指導について』
 私はこれまで、光やそのモチーフや場所の持つ時間経過などに魅力を感じて制作活動をしてきました。その経験からヒントを得て、小学生でも図画工作の中で時間や光に焦点を当てた活動ができ、その活動から何かしらの感性を育むことができるのではと思いました。
 しかし単に光を表現するというと、少し写実的な意味合いが強くなってしまい、苦手な児童も多いのではと考え、長い目で見る時間として「季節」に焦点を当てた題材を考えているところです。この題材についての指導や実践報告などをまとめた卒論にしようと思っています。

私が陶芸に捧げた6年間はクラゲとともに在りました。水槽の中を揺蕩う彼らに見惚れていたあの日の水族館で、私の目が心が残した情景を、18歳から連れ添った粘土に閉じ込めたいと思います。

『美術教育における鑑賞授業の可能性』
 美術史を取り入れた鑑賞授業での表現活動を考える。

『幼児教育で光と影を扱った活動を取り入れる意義』
 幼児の学びについて、自ら発見、気づきを得てそれらを目が探求したいという好奇心と興味、関心を引き出すことが大事だと考えています。光と影はあらゆる物に溢れまわっている。「光と影」は「ひょうたんとくまの夜」の一部だけと、夜の部であるといった「逆説性」という性質を持つといった「逆説性」という性質を持つため、「幼児からなぜ？」として、という疑問を引き出す、良い教材であると考える。

『インスタレーション制作について』
 インスタレーションの空間ごと作品化させることに魅力を感じて、自身これまでの制作として出品するよう作品を作っているため、このテーマにしています。今は一つ一つの形であつたり、より良い、設置の仕方を検討しています。

『知的な障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ美術活動』
 私が卒論の題目を「知的な障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ美術活動」とした経緯は大学で特別支援教育について学んだことが大きな理由です。学校フィールド演習では私自身、特別支援学級に配属され、私だけでなく多くの学生が特別支援学級にいったことを知り現在非常に必要とされている分野だと感じたことが理由です。また、私の妹は生まれた時から脳に障害を持っており、知的な遅れがありました。近年日本のインクルーシブ教育が見直され、私のなかで知的な遅れがあってもすべての子どもたちが共に学び合い育っていける授業を目指したいと思い今回の論題決定に至りました。

小学校図画工作において、子供たちみんなが、こんなものを作ってみたい」と主体的に、発想や構想ができるような働きかけを研究していきたい。

粘度を積む行為の反復により、てきあがる形について考えていきたいです。粘土を積んでいくことによって、出来上がる形は自我を超えて構造的な必然性を持つのではないのでしょうか。

『手びねりによる動物の表現』
 主にひもづくりによる架空生物の大物（電気鯨に入るサイズ）を想定しています。思いますが作品以上の展示を希望することになります。以降はテキストチャーや併席による表現について研究していきたいと考えています。

『陶芸における人体表現について、等身大人形の制作（信楽並瀬粘土の素焼きを活かした肌質感の表現）』
 きつかけは一度手のオブジェを作った時に素焼きの色味が肌色として良い味を出しているなと感じたことです。それに加えて、私は作業として造形が好きで、特に女性の身体の曲線美が好きなので、今回陶芸による人体造形と素焼きを活かした肌の表現を研究しようと考えてました。

『すこいウサギ好きで作ってるんだな〜』というのが伝わるような制作をしたいです。

令和5年度 奈良教育大学
 学部 学校教員養成課程 教科教育専攻 美術教育専修
 大学院 専門職学位課程 教科教育コース・芸術・保健体育領域〈美術〉

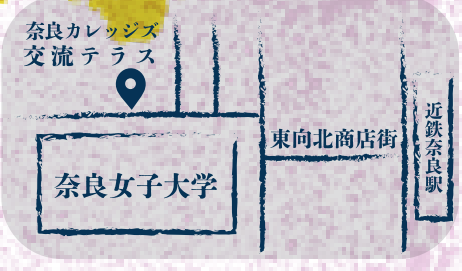
卒業・修了展覧会

2024.
 02.14.Wed 9:00~18:00
 →02.18.Sun (18日(日)は16:00まで)

@奈良カレッジズ交流テラス

・入場無料

・関連イベント
 講評会：2月17日(土)9:30—12:00頃[入退場自由]
 学生が各自の研究・制作について話します。
 卒業・修了生、下回生、教員などで会場が混雑する可能性があります。



「奈良カレッジズ交流テラス」へは近鉄奈良駅（1番出口）から徒歩約5分です。
 奈良国立大学機構本部「奈良カレッジズ」奈良市北魚屋東町 奈良女子大学
 コラボレーションセンター1階
https://www.nara-ni.ac.jp/nara_colleges/04_nucross.html

